

梅雨

からす新聞

梅の雨と書いてつゆと読む。由来は何か。
日々、疑問を持って生きろ。疑問を持ったら
調べろ。

回答お待ちしております。

第14号

発行所 東京都中野区中央5丁目1番2号西田ビル4階 〒164-0011 からす新聞本社 電話03-3382-5963 ©からす新聞本社
からすホームページ <http://www.go-karasu.com/> 投書・お問い合わせのE-mail : colors@go-karasu.com

「新しい万年筆を買ったんだよ」と耳にしたら、あなたはどんなものを想像するだろうか。黒いボディに金色のクリップとペン先。そんなもの、あるいは、ステンレス製のすっきりとした銀色のものを思い浮かべるのかもしれない。まさか、真紅のダイキャストの軸に、銀色の蛇がうねうねと巻き付いた、至極グロテスクなものを想像する人はいないだろう。ところが、私が最近購入したものは、まさにそういう代物なのである。悪趣味だねえ。そうかもしれない。だが、問題は、私のセンスの善し悪しなのではない。たかが、一本のペンにおいてさえ、我々が抱くイメージは一致しないのだ、という話である。

先日、ある生徒が、いわゆる唄本私の年代以上の人は、かつての『明星』の付録を思い浮かべるといい(を持ってきて、これにドレミを振ってくれ、との要望。多少なりとも音楽の心得がある私にしてみれば、そんなことはお茶の子さいさい、「トードシドシーソラー」などと、さささと書き上げ、然るのち、せっかくの機会なので、ぼらばらと件の本を繰ってみることにした。予想していたことではあるけれど、それでも、やはり驚いた。愛の言葉で溢れかえっていたからだ。そんなに愛の歌を唄い

たい者 聞きたい者がたくさんいる国なのか、ここは、「おいらは無政府主義者だぜ」などと物騒なことを叫ぶ者はいないのか。いやいや、また本筋から外れてしまった。山崎が愛を唄う。椎名が愛を唄う。さて、彼らの心の中の「愛」とそれを聞く君たちの心の中の「愛」、同じものだなんてことがありえるだろうか。ありきたりの具体的な事物に関してさえ、人が抱くイメージは異なるのだ、ましてや「愛」の如き抽象的なものなどは……。

誰かに何かを伝えたい。手段は様々であるうけれど、最も一般的なのは言葉を媒介にする方法である。しかしながら、一本の万年筆のイメージすら満足に共有することが難しいことをみれば、言語やそれに纏る概念を利用したコミュニケーションには限界があること、歴然である。そんな不完全な道具にさえ頼らずにはいられない生き物なのだ、我々は。言葉よりも、ひとつの目配せ、ひとつの接吻、抱擁の方がわかりあうためには大切なさ、などと主張する人々もいる。なるほど、そういうこともあるかもしれない。けれども、それはかなり特殊な関係の者同士のあいだで、かなり特殊な状況下においてしか成立しない(八面に続く)

今日の紙面

- 二面 オーラ面
- 松本と話そう。ピン、ボン、パン
- ヤンヒボ
- 三面 芸術面
- フォトコラーージュ「新宿御苑」
- 四面(アメリカンレポート)
- からすみの通信
- みんなの詩
- 五面(語面)
- ガイジン
- 六面(教養・トビックス)
- ババ堀井の法律教室

からす新聞は学習塾カラーズが母体となつて、世界に文化と芸術を発信すべく発行している新聞です。誰でも自由に参加できます(無茶じゃありません)。



Rei's Gallerly



フォトコラージュ「新宿御苑」

第2話 アルカイツクスマイル との再会

かくれみの通信

四月から始めたかくれみの生活にもようやく慣れ、慣れるどころか居心地の良さまで感じ始めた今日この頃ではあるが、商店街のスピーカーから流れる、通行人の耳にはいっこうに入りそうな音楽のようなものや(かくれみのとスピーカーは同じ高さで、しかも伸ばせば手が届く位置にあるのでそうはいかない)「110番台、スタートしました(目の前がパチンコ屋)や、「ボン」やら「チー(ここは麻雀屋)には、あきあきだ。

そうだ、奈良行こう。

修学旅行も含めて何度も行っている奈良も、実に八年ぶりだ。彼女に会うのも八年ぶりということになる。奈良は法隆寺の隣の中宮寺というところに、私好みの美しい仏像が一体ある。彼女とは、その仏像のことだ。正式名称は、弥勒菩薩半跏像(如意輪観音)。

パンフレットによると、東洋美術における「考える像」で有名な、思惟半跏のこの像は、飛鳥時代の最高傑作であり、数少ない「古典的微笑(アルカイツクスマイル)」の典型として高く評価され、スフィンクス、モナリザと並んで「世界の三つの微笑像」とも呼ばれているとのこと。

さっそく彼女に再会すべく、夜行バスで奈良へと向かった。

中宮寺に着いてみると、平日の朝一番(午前九時)ということもあってか拝観者は私一人らしく、しかも拝観の準備もまだの様で、中には入れたものの本尊が置いてある本堂の戸が閉まっている。靴を脱いで石段をあがり、鍵が掛かっているとは思いつつ戸に手をかけると開くので、そのまま畳に上がり込み顔を上げると、そこには

八年前と変わらない(たぶん)姿の彼女があった。変わったとしたらそれはむしろ私の方で、前回、最初に会った時にはその美しい顔や、胴体のラインにばかり目を奪われていたが、今こうして再会してみると、観れば観るほど頭の中はからっぽになって、かといって何故だか分らず良い気分になっていて、理屈抜きにいい仏像だなと思う。後日、和辻哲郎がその著書「古寺巡礼」でこの仏像について触れているのを思い出し、読み返してみたが、これまた前回とは違い、まるで私の心を代弁してくれている様な文章(とても真似できないような名文で)であったことには驚いた。是非、一読を。

さて、立ち去りがたいのはいつも一緒に、ここに来てかれこれ三時間になる。人が恋しくなった。興福寺だの薬師寺だのはやめて、京都にでも行って遊ぼう。そして明日は高円寺に帰ろう。あそこには素敵な笑顔だったり、ちょっと怒った顔になったり、時々眠そうだったりする人がいて、人と向かい合うというのは、仏像と向かい合うのとはわけが違い、心乱れ悩まされたりもするが、楽しいことも沢山あってまだまだ捨てがたい。一方通行で生きるには、まだ修行が足りないらしい。

一瞬仏像を持って帰りたい衝動に駆られたが、アルセーヌ・リュパンでもあるまいし、いや、仮にリュパン程の腕があったとしても、この像の前には、それどころか逆に惹き付けられて動けず、そのうちそんな考えはどこかに行ってしまう、静かに見つめていることくらいしか出来ないだろう。

(からす・美濃共同=新井)

All We Need Is Love

関係

若尾喜重

人間は淋しさのために関係を結ぶが大抵、絆にまで至らない関係に慣れると、遠慮がなくなり関係の属性によって復讐されるのだ関係代名詞が、主語を修飾しようとする語を修飾しようとする関係に於いて毀誉褒貶は避けられない。ちよつとした調味料の加減で、善意が悪意に変換してしまうことはよくあることだ。ずるがしこいカラスは、友達のをりをして他人の財布を、狙撃する。常に自分の生存が、他人の生存より優先するのだ。あなたは、わたしに、わたしの身分は、あなたに、差別されていると、憤つていたが、あなたも又、ある人達を差別していることに、あなたは全然気が付いていない。読書家と称されているあなた。あの人だつて、そういう迄も、シラノド・ベルジュラックを演じていられないでしょう。シラノは本当に、ロクサーヌを愛していたのだから。あの方は、近い将来、あらゆる関係を絶つて気品ある孤独を選択するかもしれない。

消え逝く壁の向こう側

佐藤 良示

「母さん……あれが古里だヨ!!」と私は、指を指す。「おお……そつか?!あれが故郷か!!」と母は応答。場所は、瀬戸に架かる橋、時季は初夏、鬱鬱なる汐の香りと蒼穹の空に響き渡る雲雀の囀り。滔々と流れる空間の中で、今母と過ごす最後の戯れ。積み重なる母との思い出と、過ぎ去って逝く私の存在……とどなく溢れ出でたる涙に霞んで見える水面に浮かぶ藍色の鳥影。「母さん貴方は、自分勝手な女性でしたネ!!」私は、貴方の身勝手さに随分悩まされました。貴方は、その身勝手さを、最後まで捨てずに立ち去って逝くのですか?。「貴女は消え逝く壁に私の嫌悪する、あの絵画を貼りつけて私を近づけよつとしない!!」壁がコンクリート造りの……壁ならば打ち壊せるのに!!……。「どうして?!……と私は自問し煩悶する。消え逝く壁なれど、この壁が私の人生を隠蔽する。私を闇の世界に誘う……」。「母さん!!壁の向い側を覗きたいとは、思いません……」。「……せめて扉だけは、開けておいて下さい。……今後の私の人生の為に……」。



03-3220-4679
<http://go-zeta.com/>

パワフル スタッフ

現場作業員派遣いたします

株式会社ユナイテッドホームズ
160-0004 東京都新宿区四谷2-11
TEL 03 (3359) 3101
FAX 03 (3359) 3102
携帯 090 (4015) 6830
ゼネラルマネージャー 鳥瀬悦拓

ガイジン

原点シミュレーション番外編

世界中どこに行っても共通の、コミュニケーションの原点と言える表現を、英語以外の言語に追い求めてきたわけですが、ついに英語の母国イギリスまでやって来ました。とりあえず一月の滞在許可をもらった彼(前回参照)は、少しこの国に腰を落ち着けてみようと思っているようです。(望月)

とりあえず安ホテルに腰を落ち着けて一週間が瞬く間に過ぎた。

東京のどこかに出かけて道に迷ったとする。通りすがりの誰かに尋ねてみるが、帰ってきた返事が「あの、私この辺の人間じゃないんで…」なんてことは、決して珍しくはない。そもそも東京という街が地方人の寄せ集めでここまで膨張してきたことを思えば、それも当然。実のところ、僕自身田舎者。こちらに向けて出発するまで長らく中野の厄介になっていた。

余談だけれど、趣味は散歩。「ようし、今日は電車に乗って下町方面に繰り出すか、べらんめえ」ってな感じで、こちとら隅田川縁を気持ち良く散策しているこの田舎者に、「すみません、国技館はどっちの方ですか」なんて訊かれたって答えられるはずはなかったのであった。俺が地元人間に見えたか？確かに俺は、泳ぎに行った西伊豆堂ヶ島で観光バスのガイドさんに駐車場の場所を尋ねられた経験を持つ者だが、いづれにせよ先方の人選ミス。まあ、地元人間かどうかなんて外見じゃなかなか見分けがつかないんだから、仕方がないのかな。

新しい場所では、何はともあれ探検あるのみ。あの、由緒正しく有名な二階建てバスに乗ってみよう。一目散に二階に駆け上がるが、ちっ、前の方はふさがってらあ。しょうがねえ、真ん中あたりで我慢するか。

と、見るからに白人である大男が乗り込んできたと思ったら、どっかと僕の横に座って、

"Excuse me. Is this bus going up to Baker Street?"

(すみません。このバスはベーカーストリートに行きますか?)ときた。

えっ?なんで俺にきくの?俺を見るよ、どうも見ても東洋人のガイジンじゃないの。この国は白人の国だろ、白人に訊いてくれよ...。と思って周りの乗客たちを見回すと、ありゃ、いろいろな色の肌がいろいろいる。そうか、ここはかつて大いに世界にのさばった大英帝国の首都なのだった。インドから、アフリカから移り住んだ人たちがもいっぱいいるんだらうな。しかし、俺ったら地元人間に間違えられちゃたのかな。何だか悪い気はしねえが、何にせよ、早口過ぎて言ってることが分からねえ。ベカスリー?なんじゃそれ?

"Sorry. I don't know."

(ごめんなさい。僕は知りません。)

相手の言っていることが理解できなければ、
I don't understand.

と言うべきです。

I don't know.

は、相手の言っていることが聞き取れたけれど、知らないときの言い方。さらに完璧に答えるのであれば、
これに

I'm a Japanese(僕は日本人です)あるいは

I'm a tourist(僕は旅行者です)

を付け加えて、自分がガイジン旅行者であって地理に

は明るくないことを、早めに白状しておいた方がいいのかもしれない。相手によっては話がそれで済まないこともあるからです。

"Abbey Road?"

(アビーロードには?)

ほらね。向こうはまだ彼のことをガイジンだと分かってくれてないのです。英語が下手だから分かるだろう、というものでもありません。2年も3年もアメリカに住んでいて地元人振りも板についてきたわりに、ろくに英語の喋れない日本人もいることですし。多分この人にとって英語が下手な東洋人など珍しくはないのです。まあ、彼の英語力から言って、バレルのは時間の問題ではありますが。

なに?こんどはエピロー?

「知りません。英語分かりません」

なるほど。息詰まってパニックを起こしてしまったんでしょうか。でも、緊急避難的に日本語を使うのも一つの有効な手段です。この場合、ガイジンである彼にバスの行き先を訪ねている男性の明らかなミスなのでから。

"O.K. Thank you."

たいていはこのようにすぐに諦めてくれます。

しかし、ありゃあどこの人だったんだらうなあ。

アメリカ人でしょうか。誰彼かまわず道を訊いたりするのはアメリカ人が多い気がします。移民の国アメリカは、言ってみれば世界中の民族が作り上げた国。日系人からヨーロッパ系、アフリカ系、メキシコ系、何でもいる。そんな彼らが元来文化の違う異人種間でコミュニケーションをとるのには、はっきりとした自己主張が必要なのでしょう。日本人が遠慮しそうな場面でも、言いたいことは、きっちり言う。相手にもそれを求めるのです。そいでもって話しても駄目なら諦めるか、爆撃する。

ただし、日本に来て遠慮なしにいきなり英語を使うのはやめてもらいたいもんです。ガイジンは、郷に行つては郷に従え。「こんにちは「すみません」くらい覚えてこい。この連載の出発点であります。

中山歯科クリニック

診療時間.....AM9:00 ~ PM9:00

水曜・土曜.....AM9:00 ~ PM6:00

休診.....日・祭日

03-3381-1109

パパ堀井の法律教室

未成年者の章の最後です。

「未成年者は単独では有効な法律行為は出来ない。もし、未成年者が単独で、契約などの法律行為を行った場合、原則としてこれを取消すことが出来る。しかし、これには幾つかの例外がある」ということを説明してきました。この例外の一つに、『未成年者による詐術』というものが有ります。

第二十条 無能力者能力者タルコトヲ信セシムル為メ詐術ヲ用テタルトキハ其行為ヲ取消スコトヲ得ス

という規定がそれです。「詐術」とは何かと言いますと、「自分が能力者であると偽ること」です。これは「詐欺」とは違います。「詐欺」というのは、「相手方を騙して、錯誤錯誤(に陥らせ財産的価値のある物を取る」とことです。「無能力者の詐術」といった場合には、「能力者であると偽ること(相手手に自分が能力者であると思わせること)」です。こんな悪知恵の働くものは守ってやる必要は無い、というのが第二十条の立法趣旨です。仮に無能力者がこれ以上のこと、つま

り詐術以上のことをやった場合には詐欺になります。では、詐術と詐欺とはどう違うのかというと、これは程度の問題です。詐欺は違法性が高く、詐術の方は低い。じゃあ具体的に何を以て詐術とするか、というのが問題になります。「単なる黙秘」は詐術に当たるとはどうか? 単なる黙秘」というのは、自分は無能力者であると言わないこととです。お店に行つて、「実は私、未成年者なんですけど、これください」と言わなかった。これが果たして詐術に当たるとか? 判例は、これは詐術に当たらないといっています。「実は私、無能力者なんですけど、これください」といふのは能力者だから、これを買いますよなんてことをいいたいと言つて買う人なんていませんからね。単なる黙秘が詐術に当たるとしたら、無能力者の行為のほとんどが詐術になってしまう。無能力者制度というものが何のため

めにあるのかわからなくなりますが。判例の基準は妥当なものでしょう。さて、単なる黙秘は詐術に当たりませんが、それに自分が能力者であると信じさせるようなプラスアルファがあると、詐術になります。他の言動があつた場合、黙つただけじゃなく、それ以外に、「二十歳になつていく」というようなことを「におさせたような場合」には、『はつきりと言わなくても』これは詐術に当たりません。いくら見た目が老けていても、このプラスアルファが無いかがり、詐術は成立しません。

Daddy's Law School

一面の続き

のではないが、そもそも、誰彼かまわず抱きついたりしていたら、相手とわからずあつた以前に、警察官や弁護士、裁判官などと相互理解を深めざるをえぬ羽目に陥つてしまつたろう。

私の持つAの概念があなたの持つAとびたりと重なり合つたこと...

永遠に人と人とは思いを共有できないものなのだろうか。わからない。というよりも、本当にわかりあえているかどうかを確かめる術はない、というのが実情である。

かつて、生徒に言われたことがある。私は授業中、相当な回数、「わかつたか」と尋ねているらしい。千言を尽くしたとしても本質的に確かめようのないことを質問しているわけで、生徒にしてみれば、いい迷惑だろう。けれども、私の側にはそう尋ねずにはいられない心

情がある。

考えなければいけないのは、厳密な意味においては理解し合えない可能性が非常に高い一方で、人は理解し理解されたい、という願望を持つている、ということである。この矛盾した状況の中、人は如何に生きるのか。相互理解なんて所詮無理なことだと諦めるもよし、完全に一致することはなくとも少しだけでも歩み寄りたいと齟齬するもよし。孰れにしても、群棲して生きるサル目ヒト科の生物には避けて通るわけにはいかない問題なのである。

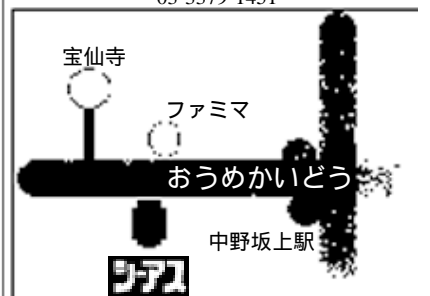
さて、ここまで読んで、果たして、あなたは私の言葉をどれだけ理解しただろうか。ああ、また、無理な質問をしてしまった。答は風に吹かれていく。そんな唄があつたな。

(全太)

1クラス4人までの少人数制学習塾

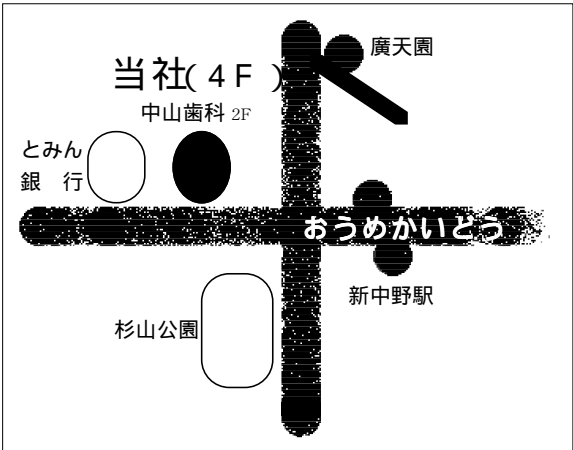


中野区本町2-50-12 ドエル中野201号
03-3379-1451



編集後記
からす新聞第十四号、無事、発行できました。新聞に限らず、これからも新企画目白押しなので、みなさんの御協力をお願いいたします。御意見・御要望をぜひお寄せ下さい。次号発刊予定日は七月二十五日です。編集協力者、特派員記者、及び、投稿を熱烈にお待ちしております。

来社見学を御希望の方は左記のところへ。丸ノ内線新中野駅徒歩〇分



Ken-ichi Shinozaki
03-3223-0456
geta-s@t3.rim.or.jp